

地域密着型サービス事業所の自己評価項目（自己評価結果表）

（調査項目の構成）

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を生かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
 - (1) 一人ひとりの尊重
 - (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援
 - (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援
 - (4) 安心と安全を支える支援
 - (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり
 - (1) 居心地のよい環境づくり
 - (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり

V. サービスの成果

※記入方法

- 管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- グループホームの場合は、ユニットごとにその管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- 取り組みの事実を実施している内容、実施していない内容の両面から記入すること。
- 取り組んでいきたい項目に○を記入し、すでに取り組んでいることも含めて、取り組んでいきたい内容を記入すること。
- サービスの成果は取り組みの成果に該当するものを○印で囲むこと。

※項目番号について

- 評価項目は、100項目です。

事業所名 エルダー介良

ユニット名 3階

自己評価実施年月日 平成 20 年 8 月 13 日

記録者氏名 高橋 二美

記録年月日 平成 20 年 8 月 18 日

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	○	これからも地域とご家族に対して、地域との結び付きを具体的に計画し、交流していきたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	行動目標を月単位で評価し、目標達成に向け努力していく。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	○	無理なく、行動目標が達成できるよう支援し機会あるごとに御家族に説明する。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	○	地域に出向く機会をつくり、積極的にふれあえる環境をつくっていく。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	町内会の活動計画に参加し交流の場を広げていく。来年1月には、「子供と老人の会」の開催を予定している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	グループホームでの行事の案内を出して、参加を促している。地域が主催する高齢者ケア研修会等に参加し互いに連携をとっている。	○	ゴミステーションや掲示板を設置し協力している。町内会とよりいっそうの連携を深める。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価作成を通じて、全職員で評価の意義とねらいについて、話し合い取り組んでいる。	○	改善シートを作成し、質の向上に努めている。自己評価の意義とねらいは、全員が理解している。今後も取り組んでいく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会からAED設置の要望があり、玄関先に設置し、掲示板にも説明している。	○	町内会長に運営推進会に参加して頂き地域との連携を深めていく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	不明な点については、高知市介護保険課に足を運び出向いたり、電話で連絡をとり運営に関して連携を図っている。	○	今後も各種書類の提供、高知市担当者との連携を深めていく。
10	○市町村との連携 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	市役所の担当者（地域包括支援センター）に状況について、報告や相談をしながら、対応している。その都度対応方法について相談にのって頂いている。施設内研修を実施して、高齢者の権利擁護について学んでいる。	○	本人の希望や現状を相談していく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を実施し、高齢者虐待防止法について学んでいる。普段なにげない会話の中に、言葉の虐待がある事に気が付き理解を深めている。地域包括支援センターと連携を深めている。	○	高齢者虐待防止関連法にあたるケースがあれば、監督官庁と連携をとるようにしていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時や書類の手続きの経過の中で、十分に説明しながらご家族や本人の意向を聴き、その方の状況に応じて時間をかけ対応している。	○ 理念に基づいて、利用者やご家族に十分説明していく。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情、相談、意見を言えるように、各ユニットに表示している。玄関には苦情箱を設置している。	○ 利用者本人の意見、不満を職員や外部に表せる機会を話し合い検討していく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	日常の出来事、行事や外出時の様子や身体精神面等の変化や預かり金から購入した商品名と領収書と残金について細かく手紙に記載し、面会時には、金銭出納帳を確認しサインをしてもらっている。職員の異動については、面会に説明している。	○ ご家族の理解や協力が必要なので、理解して頂けるよう説明していく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	懇親会や面会時に、なんでも言えるように心掛け、コミュニケーションを図っている。職員は御家族との会話の中で、聞き取っている。	○ お便りや親睦会や面会時に、再度意見や不満を言えるようにしている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段の会話から職員の意見を聞く機会をもうけている。全体会を開催し職員から意見を聴き、運営者とも密接に連携をとるようにしている。	○ 運営者が施設を訪問し、職員から意見を聴く機会をつくっているが、今後は、更に増やすようにしていく。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員増により、利用者や家族の状況の変化に合わせた柔軟なローテーションを組んでいる。	○ 平成19年に続き、人員を増加したが、今後は人員増加が利用者のサービスにより有効に働くよう、今後も必要に応じて、勤務体制を調整していく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの定着率がいいが、異動も最小限に留め利用者へのダメージを最小限に防ぐように配慮している。	○	異動や離職を最小限に抑えるための対応おこなっていく。
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年計画を立て、職員の習熟度に合わせ研修を行なっている。フロアで研修内容について、再度勉強会を開き職員が理解できるようにして研修レポートを提出している。母体の高知鏡川病院から講師を招き新人研修を行なっている。	○	研修を受けるたびに勉強会をひらき、認知症や権利擁護や虐待等について職員の意識の向上に努めていく。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	高知県グループホーム連絡協議会やユニット研修会に加入し、集会や研修を通じて、互いの情報交換をおこなっている。	○	研修や集会を通じて情報交換を深めていく。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	親睦会の開催や休憩時間に他の階の職員と休憩場所を共有し会話を楽しめる。	○	全体会を開催し、職員のストレス軽減が図れるよう努めていく。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格取得を奨励するだけでなく指導的立場のものが、各自の職能評価を多面的に行なっている。研修や資格取得の情報を伝え、資格取得時は、勤務調整を図っている。	○	管理者だけでなく、職員全体がレベルアップできるよう努めていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族や本人が納得できるまで、何度でも見学に来ていただき面接後も納得されてから入居して頂いている。	○ 少しでも、不安の解消に努めていく。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用について、相談がある時は、入居に付いての不安や体調や精神面の不安。に付いて聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	○ 時間を取りご家族の困っている事や求めている事を十分に聴いた上で相談にのっていく。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時に、お話を聞き確認した上で、適切なサービスを見極め必要に応じて、他のサービス機関へつなげていく。	○ 地域の包括支援センターや病院の相談員やケアマネージャー等と連携を図る。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学時や入居判定時に入居者や職員と一緒に過してホームの生活を体験している。入居者も馴染みの関係が築けるようにしている。入居までの期間に何度でも来て頂き雰囲気を感じて頂く。	○ 一緒に過していただき、不安な表情や戸惑いがないか上手くコミュニケーションが図れているか状態を確認し状況把握に努める。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援すると言うかたちではなく、人生の先輩として、教えてもらい成長させてもらっている。畑では、作物の作り方や畝のつくり方や鍬の使い方等教えていただく。	○ 何げない生活の場面で、自然にいきいきと身体が動かせるような雰囲気をつくりだす。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	状況を説明し、外出や外泊の機会をつくり状態について確認して頂く。病院受診時にも先生から直接説明を受けてもらっている。	○	ご家族の負担にならないように配慮しながら職員と家族が入居者を支えていく関係をつくりだす。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	日常生活については、手紙を出し伝えている。外出時に写真を写しはがきにプリントし自身で書いてもらうなど、関係が途切れないよう留意している	○	入居者の思いを家人に理解して頂けるよう、また家人の思いにも配慮しながら関係が途切れないように支援する。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大丸で買い物をし、昔勤めていた都まんに出掛け店主や店員と会話を楽しむ。天理教の方の訪問、保育園勤務時代の職員の訪問もあり関係が途切れないよう配慮している。	○	いつも気軽に訪問できるように配慮する。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲のいい関係にある方が気軽に居室で過せるように環境を整え配慮している。利用者同士の関係を職員間で共有しトラブルを未然に防ぐ。入居者同士が自然と触れ合っている場合、職員が介入せずそっとみまもっている。	○	自分の事だけになりがちだが、他者をおもい合える気持ちになれるよう雰囲気づくりをしている。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他事業所へ移られた方の状況把握は、面会に出掛けて理解している。	○	入居者が混乱しないか心配な部分はあるが、訪問ができる環境があれば可能な限り受け入れたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家人に生活暦や性格について確認し、本人や家人が望む生活が実現できるよう支援している。	○ 家人にも伝えて理解して頂き協力していただく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回入居判定会や契約時には、家人からお話を聴き生活の中で本人から情報を頂いている。	○ 少しでも、本人が望む生活が送れるようその人らしい生活が継続できるように把握していく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常生活の中で、できる事や援助が必要な部分の把握、昨日と違う身体や精神面の変化について、日々職員間でアセスメントし情報の共有を図っている。	○ 情報を見逃さず、課題の分析やどのように対応していくか職員間で意志の疎通を図りながらその人となりを把握する。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常の会話の内容や本人、ご家族の希望を取り入れ本人や職員が無理なく対応ができる、介護計画作成を心掛けている。	○ 心身の状態の把握に努め、今の状況にあったその人らしい生活が送れるに本人、家族、職員間で話合っていく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	身体や精神面の状態変化に応じて、介護計画の変更を行なっている。ご家族に介護計画の評価を伝え、希望について聴いている。カンファレンスに本人を交えて行なっている。	○ 状況変化の把握につとめ変更していく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	○	状況の変化に職員間で気づきや意見を交換し合い介護計画に活かしていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	○	看護師がおり、必要な場合は、主治医と連絡をとり異変を早期発見し受診につなげている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	○	地域資源との協同をすすめていく。
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	○	研修時や市が主催する事例検討会に出掛け意見交換や相談し情報を集めている。今のところ他のサービスは利用していない。
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	○	相談や情報を得て、連携していく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	○	状態に応じてご家族と相談し対応していく。
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	相談し連携していく。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	病状の変化に対応できるよう看護職員不在時は、介護職員が申し送りを徹底し連携を図っている。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	医療機関と連携し、情報を得て対応していく。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	重度化や終末期の状況は、一人一人違うのでより細かく対応できるよう、意志の疎通を図っていく。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	重度化や終末期の有りようは、個々に違い細かく対応できるよう意志の疎通を図っていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人や家族に関わるケア関係者や病院関係者と話し合いを持ち、情報交換を行なっている。入院する場合は、介護要約を送り、面会時は、医療機関と情報交換を行なっている。	○	機会をとらえて模索していきたい。よりよい取組ができるよう努力していく。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報については、職員採用時に説明し書類にサインをしてもらっている。入居者との関係維持の為にも言葉がけや対応方法についても職員間で検討し共通した対応している。	○	職員間で話し合いを持ち、個人の尊厳について理解していく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	何気ない会話の中で、何を希望しているのか聞き取るようにしている。入居者自身が決定する場面を具体的につくっている。	○	一人一人自己決定が図れるようセッティングしていく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは持っているが、体調面やご家族や本人の都合にも配慮しながら支援している。意欲的に行なっている事をとめないよう見守っている。	○	自分らしく自分のしたい事が出来るよう見守っていく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	季節感が感じられずにいる方の支援は、外出時等体調を崩さないよう職員と一緒にいる。パーマを希望される方は、行きつけの店にご家族と出掛けている。	○	希望がかなえられるよう支援していく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	<p>畑で野菜をつくる楽しみや収穫する喜び目で見えて感じて触って調理できるように支援する。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	○	<p>楽しみ事を増やし満足につながっていく。</p>
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	○	<p>排泄パターンを理解し、失敗の回数減少につなげる。</p>
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	○	<p>無理せず入浴が楽しめるよう支援してく。</p>
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	○	<p>日中の活動量や体調面を把握しゆっくり休んで頂く。</p>
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	○	<p>楽しみ事が継続できるよう体調面に気を配る。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	○	自分で持つ事を嫌がる方もいるので把握して個別に対応する。
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	○	個人の好みを把握し意欲的に過せるよう継続する。
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	○	希望が実現できるよう体調管理やご家族の負担にならないよう理解して頂き話し合いを続ける。
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	○	継続して支援する。
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	○	訪問しやすい雰囲気づくりや職員からも話しかけ気軽にコミュニケーションが図れるよう対応する。
(4)安心と安全を支える支援			
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	○	状態の安定や安全にむけケアを徹底していく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	○	継続して日中は鍵をかけない自由な生活を支援する。
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	○	申し送りを徹底し入居者の状態変化を確認し合う。情報を共有し連携していく。
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	○	必要時には、さりげなく援助ができるよう準備している。
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	○	事故を想定し勉強会を行った。緊急時に備えるようにしていく。リスクマネジメントについても施設内研修会をおこなった。今後も質の向上を図っていく。
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	今後も緊急時の対応方法については、勉強会を予定し質の向上に努めていく。
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	高知市の防災担当の方に具体的な情報を提供して頂いた。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居者が望む生活の中で、精神面や身体面や環境面で状況変化にともなうリスクについて理解していただけるように説明している。ご家族に判断していただく場面もある。	○	状況の変化を把握しご家族に説明し理解協力していただく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	心身の変化を申し送り対応方法について検討している。バイタルサインや食事、水分量排泄チェックを熱計表に記入し情報を共有し早期発見受診につなげている。	○	体調変化についての情報を職員間で申し送れる環境をつくる。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関と連絡ノートで情報がみつに取れるようにしている。薬の変更があれば、職員に申し送り、熱計表やフロア日誌に記載し何度でも確認できるようにしている。処方箋で確認できるよう個人ケースに整理している。服用時、一人一人ゆっくり確認している。	○	受診時の様子や薬の変更ご家族の話を職員に申し送る。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎食時に、植物繊維の多い食品や朝食時には、牛乳かヨーグルトを希望により取り入れている。散歩や体操を取り入れ身体を動かす機会をつくり自然に排泄できるようにしている。	○	便秘が高齢者に及ぼす影響について理解していく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアの言葉がけを個別に行なっている。状況に応じて歯間ブラシを使い介助している。週1回の義歯消毒や虫歯が確認できれば歯科受診につなげている。	○	夕食前にかみかみ100歳体操を行い、嚥下や咀嚼が低下しないよう予防していく。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量を毎日チェック表に記載し職員が情報を共有している。買い物に出かけた際、好きな食べ物を把握し購入している。夏場に食欲が低下傾向にある方は、高カロリーの捕食を摂取し栄養士にも相談している。	○	状況の変化に応じて主治医や栄養士に相談し対応していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	可能性のある感染症に関して、マニュアルを作成し感染予防に努めている。インフルエンザの予防接種に関しては、入居者ご家族の同意を得て職員を含めて行なっている。ノロウイルス対策としてペーパータオルの使用週1回の床拭き手擦りは毎日拭いて予防に努めている	○	感染者が発生する時期には、マニュアルを読み返し学習している。感染症に関する勉強会に参加予定。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板や布巾の漂白し清潔を心掛けている。冷蔵庫も点検整理し賞味期限を確認して処分してる。庫内は漂白剤で拭いている。	○	高知鏡川病院の管理栄養士が勉強会を開いた。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るい雰囲気の玄関になるよに、花を植えたりベンチを設置しゆっくり休めて季節感を感じている。	○	掲示板を立て、町内会の案内や施設内でのボランティア活動について張り出していく。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご飯の炊ける匂いや味噌汁の匂いお茶の葉をいって家庭で過している感覚、季節の花をいけ季節感を出している季節に応じて、畑から野菜を収穫し、見て、触れ、虫にも感動し調理している。	○	入居者個々に応じて、感覚や価値観を大切にしながら居心地のよい場を整えていく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアに椅子やソファを置き、一人で過せる空間や他入居者と過せる居心地のよい空間づくりをしている。	○	個々の状態の変化や入居者同士の関係性に配慮した居場所づくりや環境づくりをこころがけていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	タンスや椅子等、入居者の心身機能に合わせご家 族と話し合っ、馴染みのものを置いている。植 物やお茶のセット等入居以前から使っていた物を 置き安心して過せるようにしている。	○	心身状況に合わせご家族と話し合いながら行な う。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	朝、昼、夕1日3回以外にもその場の状況により換 気している。天井窓も季節や天候により開けて対 応している。居室内の室温も温度計を設置し確認 している。西日が強いので窓辺にファイルをはっ たり、すだれをつるしている。	○	体調や個々の好みに応じて、室温調節をこまめに おこなっていく。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	心身機能等の変化等に考慮し、状況に応じ生活環 境の改善に取り組んでいる。その都度、ご家族に も説明し協力して頂いている。居室内に手擦りを 設置し、浴槽の出入り時使用手擦りの設置を増設 している	○	入居者の状況に応じて、環境面の改善に努めてい く。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	今のところ環境面において混乱される方はいない が、壁のシミや音にも配慮して環境を整えてい る。	○	環境面で混乱しないように、心身状況の把握や環 境整理に努めていく。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	畑にベンチを設置し、野菜の収穫や処理をしてい る。玄関先のベンチに座り外気にふれ気分転換を 図ったり、散歩中の方と挨拶を交わす。ベランダ にプランターを置き植物をそだて、入居者が手入 れをしている。	○	身体機能をいかし環境面を整えていく。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)